



知事コラム

「きょういく」と「きょうよう」

人間にとって大事なことは「きょういく」と「きょうよう」だと言われて、疑問に思う人はいないと思います。

ところが、それは「今日、行くところがある」の「きょういく」と「今日、用がある」の「きょうよう」だと言うと笑いで包まれます。

この「きょういく」と「きょうよう」は、パズルを集めた書籍の「頭の体操」シリーズで著名な、故多湖輝千栄大学名誉教授の発案と言われています。多湖教授は「きょういく」と「きょうよう」で脳を刺激することが健康長寿にもつながると説いておられました。

私は講演で時々、60年以上前に登場した「サザエさん」のお父さん、親野波平さんのイラストを見て、「何歳に見えますか」と会場の皆さんに聞いてみます。一番多いのが「70歳」という

答えですが、「実は波平さんは54歳の設定です」と言うと皆さんビックリされます。波平さんが特別に老け顔という訳ではなく、当然ながら作者の故長谷川町子さんは、波平さんの風貌を描くに当たって、当時の50歳代半ばの標準的な日本男性を表現されたと思われます。実際のところ、当時、定年は55歳で、男性の平均寿命は63歳だったのです。それが現在の平均寿命は男性80.79歳、女性は87.05歳です。女性は世界1位、男性は3位と、ここ50～60年の間に日本人の長寿は大きく進んでいます。

しかし、私たちの希望は単に長く生きるだけでなく、充実した人生を送ることです。県では「健康長寿埼玉プロジェクト」に加え、仕事一筋だった人の地域デビューやセカンドキャリアづくりなどを支援しています。シニア人生をより充

実したものにしてい、シニアパワーで社会も変えていく「シニア革命」とも言うべきムーブメントを目指しています。

私たちも自分に合った「きょういく」と「きょうよう」を見つけて、心と体の健康増進を目指したいものです。



埼玉県知事 上田 清司